

「夢実現」に向けて

校 長 上江洲 隆

令和3年1月、約30年続いた大学入試センター試験が廃止され、新しく「大学入学共通テスト」が導入されました。20世紀以降における科学技術の急速な進歩や我々が過去に経験したことのない新型コロナウイルス感染拡大による世界規模のパンデミック等、まさに「予測困難な時代」を生き抜いていく上で必要とされる力を測っていくための大学入試改革です。これまで以上に、知識や技能のみに偏ることなく、「自分の頭でしっかり考え、正しく判断し、自分のことばで表現する力」が試されています。将来、社会生活を営む上でも有用な「真の生きる力」を身につけられるよう、今後は、教科を総合的・横断的に学習すると共に、主体的かつ積極的に探究活動を始めとする課外活動等にも取り組むことが、強く求められるようになりました。

一方、学習に臨む際の大切な心構えとして、長きにわたり変わらず伝えられてきた「勉強十戒」〔赤尾好夫氏（1907－1985、旺文社創業者）作〕があります。下記の同メッセージは、今から50年以上前に書かれたものですが、高校生や受験生にとって今日でも全く色あせない金言となっています。

- 1 学習の計画を立てよう 計画のないところに成功はない
- 2 精神を集中しよう 集中の度合いが理解の度合いである
- 3 ムダをはぶこう 戦略の第一は時間の配分にある
- 4 勉強法を工夫しよう 工夫なき勉強に能率の向上はない
- 5 自己のペースを守ろう 他をみればスピードは落ちる
- 6 断じて途中でやめるな 中断はゼロである
- 7 成功者の言葉に耳を傾けよう 暗夜を照らす灯だ
- 8 現状に対し臆病になるな 逃避は敗北である
- 9 失敗を謙虚に反省しよう 向上へのクッションがそこにある
- 10 大胆にして細心であれ 小心と粗放に勝利はない

これらは、学習面だけではなく、人生のあらゆる事柄にあてはまることばではないでしょうか。

しかしながら、何事も「言うは易く行ふは難し」です。ここに挙げたことを実行するのもそれほど難しくはないように思えますが、実際、行動に移し、さらに継続していくことは中々大変なことです。くじけそうになるとき、頑張れるかは「目標をしっかり持ち続けているか」かどうかだと思います。アジア選手として五輪フィギュアスケート史上初の金メダルに輝いた荒川静香さんが「常に目標を意識し、意味のある努力をすること」を成功の秘訣として唱えています。

皆さんが、進路実現に向け、「(何の向上心もなく)なれる自分」ではなく「(高い志をもった)なりたい自分」になることを常に目標として意識し、「最後まであきらめない、安易な方向に流されない、そして後に後悔しない」ために、上記のメッセージを念頭に置きながら粘り強く「意味のある努力」を重ねていくことを期待いたします。

また、約2,500年前に書かれた孫子の兵法には「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」ということばがあります。立ち向かう相手の実情と自分の実力を正しく知ることができれば、百回戦っても負けることはないという意味です。この「進路の手引」には、進学や就職に関するガイダンス、奨学金制度、先輩方の合格体験記等、皆さんの進路実現に向け大いに参考となるメッセージが様々な視点から掲載されております。本誌から得られる情報をしっかりと理解(彼を知る)し、普段の授業や家庭学習、及び定期考査・模擬試験等をとおして自分の現状や課題を把握(己を知る)することにより、自らの学習計画を立て、実行に移すことが容易になってきます。是非、本誌を熟読し、夢実現に近づいてください。

最後に、進路指導室には、いつも皆さんに寄り添い、力を貸してくれる先生方がいらっしゃいます。日頃から(できるだけ早い時期に、かつ気軽に)進路指導室へ足を運び、先生方へ自分の進路に関する相談をすることをお勧めします。